

わ ち だ

株式会社 西村交益社
やまぶきカード会員情報誌

Vol.11



2022
WINTER
SPRING



やまぶきカード
会員募集

つるぎ会館でのお葬儀・法要が会員価格で！
但馬内50店舗のお店でお買い物がお得に！
QRコードから簡単にご登録できます。



お申し込みフォームはこちら

登録
無料

つるぎ会館

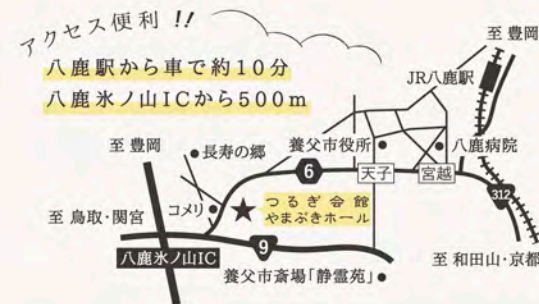
株式会社 西村交益社

ホールのご予約・お問い合わせは

☎ 0120-62-5909 [つるぎ会館]

〒667-0044 兵庫県養父市八鹿町国木133-1

www.koekisha.info



スタッフ募集

パート・アルバイト 週1日1時間から
正社員も同時募集中！ まずは上記までお電話ください。(担当/岡本)

インフォメーション

協力店ショップガイド

おしえて！戌亥先生

音楽室だより／中嶋由紀

とある「肥後もっこす」の夢／伊藤雄大

ブラジル滞在記／密祐快

創業60周年記念特別インタビュー

「わだち」に込めた思い

つるぎ会館（株）西村交益社

ある日、会館を訪ねて来られたご夫婦。

「自分達の葬儀の事を相談しておきたい」との事でした。

ご主人が困難な病気と闘っておられる事、二人の娘さんは、それぞれ嫁がれて、遠くにお住まいであること…など、ご事情をお聞きしてから

プランの内容や式の流れ、費用など提案しました。

話が終わり、コーヒーをお出しすると、

「よしっ、これで終(しま)いは、決めた。あとはこれからどう精一杯生きるか。コーヒーが特別美味しく感じるわ。」とおっしゃいました。

そのことがずっと胸の奥にあり、当社にその「これからの人生」を少しでもサポートできる事がないかとの思いから、会員カードを作ったのです。まだまだ発展途上ではありますが、もっとお得で便利なカードにしていきたいと思っております。

「わだち」は、車の通ったあとに残る車輪の跡の事です。

古代ローマ遺跡を旅した時、何千年も昔の馬車の跡がくっきりと残っていました。会員の皆様が歩いてこられた、尊い人生がそこに重なるように思います。

会員情報誌の名前を「わだち」にしたのはその思いがあったからです。

「今日という日は、残りの人生の第一日目である」

私達のこの「わだち」が少しでもお役にたてることを願って。

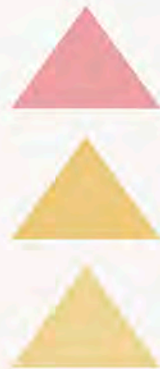


おかげさまで 創業60周年

つるぎ会館
株式会社 西村交益社

創業60周年記念 特別インタビュー

西村交益社は2021年9月で創業60周年。
今回は、創業者（現社長の母）西村篤子さん（93歳）に
創業当時の様子や思い出話などを聞いた。



トランプ占いで予言!? 出産と同年に創業

西村交益社は、息子の正司（現社長）が産まれた年に作った会社だ。7月下旬にお産して、翌月の地藏盆の時に「八鹿には葬具屋をしておかない」という話から親戚に勧められてこの商売を始めた。当時、夫は大工。私はいろんなところに仕事に出ていたけれど、子どもができて働きに行けなくなるし、何の資格もない。駄菓子屋をやった経験から商売は好きやと思ってたし、トランプ占いで商売やってみたら成功すると言われたこともあったしで、二晩考えてやることを決めた。

山東町梁瀬（現朝来市）の葬具屋さん、花の切り方、四本幡や四華花なんかの葬具の作り方を一週間で教えてもらって、手探りの状態で夫と2人で「八鹿葬具店」をスタートした。



株式会社 西村交益社 創業者
西村篤子さん

葬具は何でも手作りで 評判良し

葬具屋は、お棺とか葬儀で使う道具を調達して飾りつけて、葬儀の手伝いをする仕事。葬具は提灯とか問屋さんから取り寄せるものもあったけど、私は買うのが嫌い。もともと手先が器用なほうだったから、紙細工もんはできる限り手作りした。家の2階のひと間が私の仕事場だった。

うちの人は大工だったからお棺を上手に作った。腕がいいって結構褒められてたね。創業当時は土葬もまだあった頃で、最初は座棺、徐々に火葬が増えて今のお棺を作るようになった。木材を板にして、乾かして、決まった寸法に切って、夜にカンコン。糸鋸で飾りも作っていた。

まだ車を持ってない頃。リヤカーで座棺を引くのはまだいいけど、長いお棺を自転車のハンドルに引っ掛けて病院まで運んだこともあった。これは、今思うと大変だったねえ（笑）。

ずっとぶっつけ本番みたいな人生

葬具を運ぶにも、外回りするにもこの仕事には車がいる。産後一年の頃に免許を取った。一発で取れちゃってみんなにビックリされた。火葬が進むにつれて霊柩車も必要になってくる。霊柩車自体にも免許がいて一苦労。当時のお金で1100万円もかけて霊柩車をオーダーメイドしたのもいい思い出。時代的に、女性で免許を持っている人が少なかった頃。ましてや霊柩車を運転している人なんていない。但馬には女の運転手がいるぞって少し噂になった(笑)。車の話でいうと、商売の繋がりで、近所だけじゃなく、但馬内外の葬儀に関わらせてもらった。観光中などで但馬内で突然亡くなられた方を、東京や九州まで車で搬送することも度々あった。ナビもない時代、聞き覚えで夫と運転を交代しながら行ってクタクタ。搬送が終わって、もうお金なんかいらんわ、仮眠させてーと、今まで仏さんがいたってところで2時間ほど寝てトンポ帰りみたいなこともあった。ずっとぶっつけ本番みたいな人生を送ってきてるなと思う。



出る杭は打たれるけど、出る！

当時、車の運転も珍しがられたけど、一番に何かを始めたってことが他にもいろいろある。花祭壇もそのうちのひとつ。近所の花屋から「花を使ってくれ、助けてくれ」と頼まれて、葬儀でたくさん飾り付けた。白木の祭壇が主流な頃、とても珍しいって喜ばれた。

地域で火葬を進めるきっかけも作ったかな。主人の親を見送る時に親戚からは土葬を頼まれたけど、当時うちは養父郡の霊柩車の運転を任されていたこともあって火葬を強行した。穴を掘ったり準備することが多い土葬より良かったんだろうね。その後、村では土葬をしなくなったと思うわ。

他にも、誰でも使える葬儀会館を作ったのも地域では初だね。それまでは自宅葬が当たり前だったけど、商売する中で、常々、家で葬儀をできれへん人もあるなあと思ってた。で、1997年に、「あまご会館」を建てた。最初は事情がある人だけが使っていたけれど、今じゃ会館葬が主流になってきた。

息子の代になっても新しいことに挑戦し続けているみたいやな。出る杭は打たれる時もあるけど、出る！ 夢を持って進んでほしい。





つるぎ会館

ブラジル滞在記

隣国パラグアイの教会

ブラジルに滞在中、隣国のパラグアイに行く機会を得ました。ブラジルに移住した日系人の20数家族が隣の国パラグアイに移住したのが80年前でした。その記念式典が開催されるので私も出席することになったのです。現在、ブラジルに住む日系人は190万人で、パラグアイには約1万人。入植後には輸入に頼っていた小麦の栽培を推進し、今では輸出して外貨を稼ぐほどに発展させたのが日系人移民の成果なのです。

サンパウロからパラグアイの首都アスンシオンまで、飛行機で約2時間で到着。ブラジル日系人協会主催の団体旅行でしたから、何一つ心配することなく予約されていた高級ホテルに到着。式典は翌日でしたので、のんびりと過ごす夜でした。翌朝は早めの朝食を取り、貸し切りバスで会場に向かいました。会場は大きなイベント

ホールで出席者は9000人。9〜10人ごとの円卓が多くあり、案内された57番テーブルに着いて始まりの待ちは待ちます。いよいよ司会者が立ち、主賓の登壇を告げます。主賓は誰であろう、天皇家の眞子さまでした。その驚きは、移住初期にわずか20数家族だった人達が、今では天皇家を招く程になったのですからすごいものです。式典は眞子さまのメッセージに続いて大統領が続ぎ、その後は功労者表彰が長々と続き、握り寿司が最初のメニューで食事が始まり、万歳三唱でようやく解散でした。

その後、市内観光で古いカテドラル(教会)に立ち寄りしました。丁度ミサをやっていて、演壇に立つ司教(神父)は参列者に向かって聖書を読み上げ、その後布教を始めました。それが終わると聖歌隊の美しい聖歌を皆と共に大合唱です。

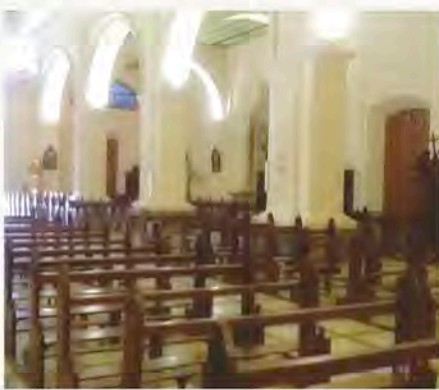
何気なく見ていてふと気づいたのが、カトリックの教会では、神父はずっと信者の方を向いて、聖書を朗読して説法し、聖歌を歌う。つまり、ずっと信者の方を向いて語りかけ続けるのです。キリスト像と十字架の方には背中を向けたままです。ところが私達仏教僧はどうでしょう。葬式でも法事でも檀家や信徒には背中ばかりを向けていて、檀信徒の方を向くのは実に僅かな時間です。ブラジルに赴任した当初、私は日本での葬式や法事の通りにやっていたのですが、これを機会に読経の後の法話をしっかりするように変えました。帰国した後も通夜や法事の時は、

遺族や会葬者に語りかけることにも重点を置くようにしています。話が上手かどうかは別として、背中ではなく参列者の方を向くことが大事だと感じます。新しい時代に生きている人達には難解な読経だけでは納得しづらく、ありがたみを感じることもなく、ついでに益々仏教離れが進む、そんな気がしています。背中ばかりではなく、前を向いた仏教を模索することも重要です。

今書きながら思い出したのですが、パラグアイのその教会では、聖歌を歌う時の伴奏はギター1本だけでした。教会も「意気な事をやるなあ」と感心してしまいましたよ。



食事の最初は「握り寿司」でした

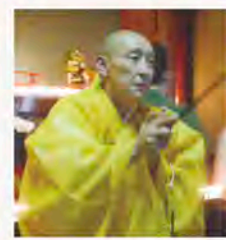


パラグアイ国首都アスンシオンにある教会



高野山真言宗高照寺

花の寺の「花説法」は有名で、毎年訪れるファンも多い。
兵庫県養父市八鹿町高柳1156 tel.079-662-2865



高野山真言宗高照寺(花の寺)名誉住職

密祐快(みつゆうかい)

青年時代に中南米を放浪。放浪中の2年間、グアテマラのインディオ達と暮らす。帰国後、僧侶として、又現代美術作家として各地で活動。高野山の命を受け、南米開教区総監としてブラジルに赴任し、3年間の任務を終え、帰国。

とある「肥後もっこす」の夢



20代を農業系出版社で過ごした。望もろくが望むまいが、1年間で360日くらいは稲作農家のことを考える日々だった。「男所帯にはウジがわくと言いますが、うちの場合はゴキです」。初めて1人で取材に行った熊本、稲作農家は、「少々」変わった人だった。ゴキの気配を確かに感じる6畳の小さな家には、ねじり鉢巻をした半裸のおじさんが座っている。「今日も元氣だ。たばこがうまい」の広告でしかついぞ見たことがないスタイルだ。このおじいさん＝本田さんと文通するのが、編集部での僕の最初の仕事だった。半年間、およそ1週間ごとに送られてきた本田さんの手紙は、「前略、小生」から始まり、結論はいつも一緒である。

「稲作人生のなかで、なんとしても、1tどりをしてみたい。一度でも米をつくったことのある人ならわかると思うが、これは、なかなかとんでもない話だ。全国の米の平均収量は10a当たり約540kgだから、1tといえば、その2倍である。しかも、本田さんはいわゆる有機無農薬でそれを成し遂げる、と言っ」。「僕は阿蘇生まれで、『肥後もっこす』などところがあつてですね、これと決めたら梶子でも動かない頑固者なんです。本田さんは当時76歳。かれこれ30年ほど「1tどりの夢」に挑戦し続けていた。曰く『米余り』の時代といわれますが、有機無農薬の米は少量しかつくられておらず、僕のなかでは『米不足』なんです」。

当然、周りからは「荒唐無稽」「不可能だ」と言われるが、とはいえず、まったく根拠がないわけではない。本田さんの農法の基本となっているのは、戦時中に鳥取県の福井貞美さんが開発した「福井式多収法」というものだった。福井式は、植える苗の本数を1ヶ所1本にしたうえで、植える間隔も大きく広げるといふ方法で、のびのびと育ったイネは10a900kgという、途轍もない出来高を記録したという。

本田さんの田んぼも大半が1本植え。もちろん、正確に1本ずつ植えられる田植え機など存在しないので、50aの田んぼ、すべて手植え。稲株はとも大きく、1株に67本のかなり大きな穂がついていた。1tまではいかないが、10a800kg以上はとれるかもと、2人して「これは、すごいことになるかもしれない」と期待して取材の後、お別れした。

しかし残念なことにこの年は、収穫直前の大雨によりイネが倒れてしまい、惨敗。報告の手紙に

「米だけに、ヌカ喜びでした」と、何と返答していかわらないけども洒落た一言が添えてあった。それから、僕が退職するまでの7年間、頻度は減ったものの、本田さんとの交流は続いた。その間ずっと1tどりに挑戦し、失敗していた。

ある時は「青森の木村秋則さんの家に見学しに行ったついでです」と、超レトロな軽トラで、東京まで米を届けてくれたこともあった。米袋には「昔人間の肥後もっこす米」と、マジックで書いてあった。熊本から青森まで行ったものの、アポなどといっていなかったため、数日探したが、結局会えず仕舞い。木村さんには、自然栽培の土づくりのことをどうしても聞きたかったのだという。「1tどりはまだ成し遂げておりません」と報告してくれたが、それ以上に聞きたいことがたくさんあった。時は流れ、2020年。僕は、出版社を退職し、サラリーマンすら辞めて何をしているかよくわからないタイプの田舎の中年となった。

当時つくっていた雑誌を、今は読者として定期購読している。そのなかに、しばらく忘れていた本田さんの名前を発見したのが2020年1月号。記事には、38歳の若者が本田さんのイネに感銘を受けて、なんと、その農法を「弟子」として教わっていると書かれていた。

弟子曰く――

「本田さんは87歳の今も現役で、1tどりの夢を追い続けるスーパー百姓です」

「僕が本田さんに教えてもらったものは、農法だけではありません。何歳になっても冷めない米づくりにへの情熱が、なよりの刺激となつています」

さらに笑顔の若者とともに、口をへの字に曲げた、いかにも偏屈で頑固そうな本田さんの写真が掲載されていた。日本の稲作には未来がない、夢がないと嘆く人も大勢いるが、そんなことはない。夢を追い続けた「肥後もっこす」の意思は、見事すぎるかたちで、次世代に引き継がれたのだった。

伊藤 雄大 (いとう ゆうだい)

1985年生まれ。大阪府能勢町在住。東京での農業系出版社勤務をへて、能勢町で植木屋に就職。現在は、農業・農家取材・植木屋の3足の草鞋で生きている。

instagram@yudai_itou





音楽室だより

ピアノと猫がやってきた

話は2020年のクリスマススイプ。私が勝手にお姉さんみたいに思っている方からメールがきました。

「ピアノいりませんか?」と。

義理の妹の実家に思い出のつまったピアノがあるけれど、置く場所もなく弾く人もいない。かといって処分するのも、というお話で、一度見に来て欲しいとのこと。移転した音楽事務所で流れのままカフェを始めて、あとはここにピアノがあれば最高、とピアノを探し始めていた頃だったので、喜んで見に行く約束をしました。

1月、事務所のメンバー3人でお邪魔してピアノにご対面。昔のピアノならではの木目調のしつかりしたピアノ、しかし長年弾かれていなかった。音も見た目も懐かしい感じになっていました。さて、調律でどの位復活するかなと考えていたら、なんと工房に出して直してからお譲りします、せっかくならいい状態で沢山の人が弾いて欲しいと、これまた驚きのお話。有り難くお願いすることになりました。

そこからピアノは宮城県の工房に旅に出ました。コロナ禍での思わぬ部品の不足や例年と違う天候による修理の工程の遅れなどもあり、なんとか年内にはと連絡を頂いていましたが、2021年10月。くもり空会館にピアノがやってきました。

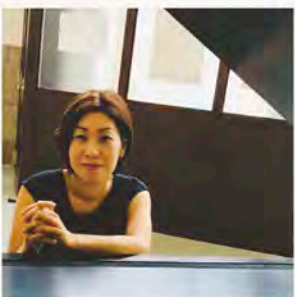
到着したピアノはびっくりするほどピカピカで、ピアノの中も美しく整えられ、待ち構えていた全員があまりのことに感嘆。ピアノとの再会を喜びました。沢山の方に弾いてもらって、その演奏を沢山の方と楽しむ。それが一番の恩返しで、ピアノを大切にすることだと思っています。タイミングよく連日報道される新規感染者の数も落ち着いてきたので、いくつかのコンサートやライブを開催しました。

ピアノ開きは11月。東京の大好きなピアノストの先生をお招きしました。お客さんの一人が、昔のサロンコンサートってこんな感じだったんだろうな、と言われたように、ホールではなく近い距離で聴くクラシックのコンサートがとても素敵で。しかもその後打ち上げまで自分のお店で演奏者の方を囲んで出来てしまう。最高です。都合のいいことに、お隣は地元で愛されている海鮮系に強い居酒屋さん。この値段で適当に、とお願いでお願いしてお店のお姉さん?が出来たら運んで来てくれるのです。その日、最終的にはそのお店のお客さんが訳もわからないままイカの干したやつを持って来てくれました。お互い「えへ」となりました。

昨日は心の師匠のピアニストの方から、「ピアノ入ったみたいだけど、ライブって出来るかなあ」と嬉しいお問い合わせでした。もちろん出来ます!出来ますとも!ぜひぜひぜひ!と鼻息荒くお返事しました。こうやってピアノが新しい世界に繋いでくれます。ちょっとした発表会なんかもしたいし、作曲家限定とかのマニアックなコンサートもしたいし、小さいながら夢が膨らみます。

そして実は、同じく10月。くもり空会館に猫がきました。保護猫兄弟オス2匹です。名前は阪本さん(黒猫)とハカセ(キジトラ)。こちら不思議なご縁でお店にやって来ました。小さい時から沢山の方に可愛いがってもらっているからなのか、犬のような性格の、水すら恐がらない気さくな猫達になりつつあります。もうこの猫達は無性に可愛いです。愛しかないです。

そんなこんなで、店の方向性のそもそももを決定するような2つが10月に訪れて、やっぱり今年も幸せによい一年だったと思っています。ピアノと猫の店、くもり空会館(10月新装開店?)。ぜひ遊びに来てください。



中嶋 由紀 (なかじま ゆき)

ピアニスト。豊岡市在住。地域密着型ミュージシャンとして様々な活動をしている一般社団法人ワンノート豊岡を立ち上げ、代表理事として地域のコンサート企画。事務所兼喫茶店でコーヒーも淹れている。

なるほど豆知識 2



仏教では、特に殺生を戒めていますから、動物を殺して得た毛皮の衣服の着用は避けましょう。革製品も同様で、喪服用のバックやぞうりが布製品になっているのはそのためです。

参列者 <男性の洋装>

- ブラックスーツにワイシャツは白の無地
- ネクタイは黒の無地が一般的(地味なストライプも可)
- 靴は黒、靴下は黒かグレー
- 靴は紐を結ぶフォーマルなもの
- 格式のある葬儀や社葬などで、葬儀委員長を勤める場合や弔辞を読む場合は喪主に準ずるモーニングコートを着用



おしえて!戌亥先生

喪服のマナー 《参列者編》

参列者 <女性の洋装>

- 黒のアンサンブルかワンピース又はスーツを着用
- アンサンブルの下のワンピースは七分袖か長めの半袖
- ツーピースを着る場合、ブラウスはつやのない素材を選ぶ
- 靴は低めの黒のポンプスが楽
- 靴下は黒またはチャコールグレー
- バックは布製でさげ手のあるもの
- アクセサリーは一切用いないのが正式
- メイクは薄く、アイシャドーや濃い口紅、赤いマニキュアは避ける
- 一般会葬者の場合、濃紺やグレー系の地味な平服も可能



冠婚葬祭コンサルタント

戌亥 正三郎

関西テレビ・毎日放送でもお馴染み、業界第一線で活躍中の冠婚葬祭アドバイザー。終活セミナー、エンディングノートの講師で日本中を駆け回る超多忙な毎日。また、日本のしきたりや食育の講演も多く、全国のセレモニーホールで新人研修にもあたる八面六臂の活躍ぶり。2009年より弊社顧問。

なるほど豆知識 1



喪服にはパールのアクセサリを着けるものと思っている人が多いようですが、アクセサリは身を飾るものですから、死者にはもちろん遺族に対しても思いやりにも欠けることになります。従いまして、アクセサリは一切着けないのがマナーです。



法要のカタチ 手間のかからない

法要専用 やまぶきホール

1

アクセス便利

八鹿氷ノ山ICから500m。
遠方から来られる方にも便利な立地。

2

準備・片付け不要!

何かと大変な準備・片付けはございません。

3

ワンフロアで法要を完結

読経と会食がワンフロア(バリアフリー)で
できるため、ご高齢の方でも安心です。

4

丁寧に作られたお料理

ご予算に合わせて旬のお料理を
複数の中からお選びいただけます。

5

全てこちらで手配できます

返礼品・お供え・タクシー手配代行など
法事に必要なものは全てご用意できます。

ご相談 ご予約はつるぎ会館まで

 つるぎ会館  0120-62-5909